



24 日

「アブラヤシとアジアゾウ」・「大和川の源流から河口まで」

昨年 8 月に予定していました科内研修は緊急事態宣言により中止となってしまいましたが

本日、実施することが出来ました。

2 時間の予定が一時間延長し充実した座学となりました。

李三さん、金戸さんありがとうございました。

日時 2 月 24 日(木) 10 時～13 時

場所 大阪ボランティア協会 大会議室

参加者 伊藤、金高、金戸、上条、木村、権野、坂根、杉谷、東川、秦、福嶋明子、

福嶋昭治、李三、森、山本、藤井 (16 名)

10:00～11:00 李三さんによる『アブラヤシとアジアゾウ』 自然破壊に視点をおいた講義でした。

昨年 8 月に中国雲南省で野生のアジア象が街に現れビックリした話から始まる。

陸上最大の野生動物の象はアフリカゾウとアジアゾウが生息している。アジアゾウが日本に初めて来たのは 1408 年足利義持に献上されたとのこと。それよりも先に日本人は象を知っていた。何故なら普賢菩薩が象に乗っているとの話、又、タイでは象が死んでしまった時だけ精霊に許しを乞い食用にしている話は興味深かった。

ボルネオ島に住む野生アジアゾウはアブラヤシ開墾のため減少、森林だった畑を食害するようになり住民が薬殺や銃殺による駆除をするようになった。このアブラヤシの実からパーム油が採れる。(パーム油は飽和脂肪酸を多く含む)アブラヤシは食物や洗剤等私たちの暮らしには良いことづくしに見える。しかし、現地では大規模プランテーションを開発し生産されているが大きな問題が起きている。森林破壊、人権問題、森林火災、地球温暖化等どのようにして解決できるのか？私たちに何が出来るか？との問いかけであった。

RSPO 認証とは

持続可能なパーム油のための円卓会議の略で、環境や地域社会に配慮した”持続可能なパーム油“の生産を広げる国際組織である。

現状を変えることが出来るのは私たち消費者です。RSPO の認証のついた商品を選択する、

先住民の暮らしを守るため企業に RSPO に参加してもらえるよう働きかけていく等、
私たちに出来ることをやってみようとの投げかけであった。

11:20～12:20 金戸さんによる「大和川の源流から河口まで」

川と暮らしに視点をおいて現地観察をしながら学習した講義でした。

大和川の流域

大和川は奈良県の初瀬川を源流とし佐保川、龍田川、飛鳥川、葛城川等を集め亀の瀬溪谷となり
大阪平野に流入、柏原で石川と合流し大阪湾へと流れる。一級河川である。

大和川の流域図で説明を受ける。

大和川付け替えを求める運動

大和川は古くから人や荷物の運搬船が通る主要水路であり同時に水害の多発地帯であったよう
だ。

1660年ごろから河内郡今米村庄屋中甚兵衛が中心になり川筋の付け替えを幕府に嘆願し続
けた。

付け替え工事その後は旧大和川の河川や池の跡地を新田開発にすれば農地面積を増やすことが
出来ると指摘したが反対にあう

度々の洪水のためようやく 1704 年に大規模な付け替え工事が行われる。

付け替え工事後、旧大和川周辺は洪水の心配がなくなり、旧大和川筋の新田には綿、菜種が栽培
され、河内木綿として全国に流通するようになったそうだ。

付け替えとその影響

しかし新大和川周辺では付け替えのため被害を受けた村や人々、つぶれた土地や農地を失った農
民は一家離散や他の土地に移住していったこと。付け替えまで相当な年月がかかったこと等
新大和川周辺に洪水が頻繁に起こった。

大和川から新大和川の付け替え工事の背景と歴史は洪水との闘いだったようだ。

感想

李三さんの講義と金戸さんの講義より共通して感じたこと

：パーム油に関わる背景、象から始まり森林破壊、人権問題、森林火災、地球温暖化等

：大和川の背景には土地を追われた人々、洪水で沢山の人々が命を落としたこと等々、

想像を絶する人々の犠牲の下に今の「私たちの暮らし」があるのだと言うことを心に留めてお
くべきだと感じました。

藤井